

令和4(2022)年度 第2回 下都賀地区臨時採用教員研修会を開催しました

日 時：令和4(2022)年8月24日(水) 9:30~12:00

会 場：栃木市岩舟文化会館・岩舟公民館

参加者：(1) 栃木県教育委員会採用の臨時採用教員及び非常勤講師の希望者
(2) 市町教育委員会採用の期限付き教員及び非常勤講師の希望者

1 研修内容について

- (1) 目的 ①学習指導、児童・生徒指導、学級経営等について基礎的な指導力の向上を図り、自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
②職務に専念することなど、教職員としての使命を自覚し、自己啓発に努めようとする態度を養う。
- (2) 内容 ○諸連絡 ①「臨時採用教員の任用について」
②「本日の研修の進め方について」
○学習指導に関する講座(7講座)
○児童・生徒指導に関する講座(7講座)

2 本研修で確認したこと

- (1) 臨時採用教員の任用について
○令和5年度臨時的任用希望調査(今後の予定)等について
○教育公務員としての心構え・服務について
① 体罰及び言葉による暴力の禁止
② 交通法規の遵守
③ わいせつ行為、ハラスメントの禁止
④ 個人情報漏洩・流出の防止
⑤ 教育公務員としての身だしなみ(服装、髪型、アクセサリ等)
⑥ SNS等による職務上知り得た情報の拡散・SNS等を利用した出会い
- (2) 本日の研修の進め方について
○本研修の目的の確認
○主体的に研修に参加するための心構え

3 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉より)

【第一部 学習指導に関する講座】

- 私は中学校で国語を担当しているのですが、効果的な発問や授業の流れについて常に頭を悩ませながら指導しておりました。講座を受け、何を大切にして国語の授業をしていくかということや、子どもたちの知的好奇心を刺激する仕掛けについて知ることができ、大変勉強になりました。2学期からの授業づくりに活用していきたいと思います。
- 評価について、一つ一つ確認する余裕がなかなかないまま過ごしてしまっていた部分に

気づき、反省しました。改めて、子どもたちがさらに深い学びに向かうことのできる指導と評価について、自分も学んでいく必要があるのだと感じる機会になりました。また、同じ地区で一緒に頑張っている仲間と意見交換ができたことが実りとなりました。

○外国語における「言語活動」の重要性を知ることができました。「一方通行の授業をしない。ほんものを大事に」という言葉が印象的でした。日々の仕事の中で、こなす授業になってしまっていないか再確認することができました。子どもたちが笑顔で意欲的に学ぶことができるよう、教材研究の中で工夫を入れられるように努めたいです。

○私は現在、道徳の授業を行っておらず、どのようにしたら子どもたちにとって良い授業ができるようになるのかが知りたくて受講しました。この講義で、子どもたちの実態に合わせたねらいを考えることが大切だと分かりました。そしてねらいに沿って、中心となる発問を考える、子どもの答えを予想する、それに対する問い返しを考え、授業をつくっていくと良いことが分かりました。教材研究の大切さを改めて感じました。

○就学を境にした子どもの状況で、「下りたくない段差」があることを初めて知りました。今年1年生の担任となり、なんでも子どもにしてあげたり、上級生に頼り過ぎたりしていましたが、1年生が「ちょっと助けてもらえばできる」「みんなとがんばる」「自分でがんばる」気持ちづくりが大切と学びました。また授業づくりでは、環境を整え、楽しめる活動をたくさん取り入れて、9月から実践していきたいと思います。

○今回の研修会で、ICTとの向き合い方、考え方、活用方法等、これまでの自分自身の考え方を改めて見直すことができました。動画を視聴した際に、ICTは情報活用能力を養うための一つの道具に過ぎないが、授業内での取り組ませ方や取扱い方など、きちんと徹底していれば、児童も自ら考え探究的な学習が行えて、結果的に情報活用能力が培われていくのだと実感しました。また、ICT活用には学級の学習規律や人間関係の徹底も必要だと感じました。

○学力向上のはじめの一歩について、具体的な場面を想像しながら学ぶことができました。私は今までねらいやまとめ方に悩みを抱えていましたが、今回の講義から、子どもの視点に立って共通理解が図れたねらいや子どもから授業のポイントを聞いた上でまとめていくということが分かりました。一方的ではなく、子どもとともに授業を楽しめるように、二学期も授業づくりに努めます。



【第二部 児童・生徒指導に関する講座】

○今までクラスの子どもたちに指導するときに、できていない所ばかりに目がいき、注意することが多かったのですが、できている部分を見つけ、褒めることで子どもたち自身が気

付き改善することにつながるのだと学びました。また、グループで先生方と話してみても、自分にはなかったアイデアを知ることができました。この講義で学んだことを二学期に活かして、学級づくりに励んでいきたいです。

○特別支援教育の根底には、きめ細かな児童生徒理解があることを改めて実感することができました。教員によるちょっとした工夫や支援によって、救われる子どもたちがいるということを忘れずに、向き合っていきたいです。特に「当たり前を見直す」ということを、二学期から進んで取り組んでいきたいです。子どもたちの目線に立って、要因や背景を読み取り、一人一人の気持ちや思いに寄り添った支援をしていきたいと思えます。

○「ユニバーサルデザイン」は障がいのある方が生活しやすいように配慮されたものと思っておりましたが、今そこで生活している全員が生活しやすい環境をつくり出すものだと気づきました。ユニバーサルデザインを実践するための方法や具体的な例があったので、校内で自分もやってみるとともに、他の先生にも提案できたらいいなと思えました。子どもだけではなく、学校に関わっている人全員にとってよりよい環境を目指したいです。

○「隠れたカリキュラム」について、その重要性や二学期から実施しなければならないことについて分かりました。特に教室の環境を整えること、時間を守って行動することの大切さが分かりました。一学期はそれができず、あまり気にしていませんでしたが、二学期はそれを意識していきたいです。

○生徒指導に対する苦手意識があり、「自分は生徒指導ができない教員なのではないか」と自信を失っていましたが、「積極的な生徒指導をする」という意識で取り組むことが大切だと分かり、気持ちが軽くなりました。生徒のよりよい学校生活のため、今後は未然防止の観点で指導を頑張っていきたいと思えます。大変勉強になりました。

○学校内でICTを活用する上で、私たちはデジタル機器の便利さと危険性を知っているため、正しい使い方を模索できますが、情報モラルを学んでいない子どもは何をしたら危険なのかが分かりません。そういった時に正しい使い方を教えられる情報技術を持っておくことが必須であるため、タブレットを活用しつつ私自身も学んでいく必要があると学びました。

○学級懇談会の企画・方法について、楽しく学ぶことができました。教員として、子どもたちとの関係性づくりだけでなく、保護者とも良好な関係を築いていくことの重要さと手立てについて経験しながら学ぶことができたので、実践につなげていきたいです。

「親は子を褒めたい」という言葉から、面談の際にも取り入れていきたいと思えました。

